

北九州市内の子ども食堂について

令和3年9月2日

子ども食堂ネットワーク北九州事務局/コーディネーター
西村 健司

子ども食堂ネットワーク北九州とは

- ・行政と民間の協働によるネットワーク

意見交換会や研修会の開催、寄付やボランティアの調整、運営相談、助成金の紹介など子ども食堂の活動が円滑に実施できるようにサポート。

- ・子ども食堂コーディネーター4名

北九州市子ども家庭局子育て支援課3名
アドバイザー 2名

で連携を行いながら事務局を運営。



北九州市内における子ども食堂

「孤食の防止」と地域の子どもと大人がコミュニケーションを図りながら安心して過ごせる「子どもの居場所」として実施。

子どもだけではなく、子ども達を見守る側である地域の方々にとっても多世代の居場所として役割を担っている。

北九州市内にある子ども食堂

市内37ヶ所（平成28年に2か所からスタート）

（子ども食堂ネットワーク所属は34ヶ所）

運営母体：株式会社、社会福祉法人、NPO法人、地域自治組織、
任意団体など

- 主な開催場所は、市民センターや大学施設、自己所有の建物等
- ボランティアスタッフの割合

50歳以上7割、学生2割、50歳以下1割

（地域の高齢者、子育て世代、子育てを終えた世代、大学生、中高生etc...）

北九州市内の子ども食堂の概要

対象

地域在住の小中学生が中心。就学前の子ども達が多い食堂もあります。共働き家庭やひとり親家庭の子どもの参加も多いが、必ずしも経済的に厳しい環境で生活をしている訳ではない。週末に家族一緒に参加する家庭も多い。

人数

子ども：20人～30人前後 ボランティア：15人前後

参加費

子ども：無料～100円 大人：無料～300円

開催頻度

週1回～月1・2回程度

費用

(例) 月2回、50食程度で年間30～50万円

ほとんどを寄付食材でまかなっている子ども食堂も！

食材等の調達

企業や市民の方からの寄付、購入、フードバンクなど
ネットワークや市を通じて企業からの寄付も増えてきている。

アサヒ飲料、キューピー、響灘菜園、シャボン玉石齋、久原etc...



参加者の声

<孤独・孤立の視点から>

【参加者した子どもの声】

- 両親が共働きで子ども食堂の時には友達と一緒に食事や遊びができるのでうれしい

【高齢ボランティアスタッフの声】

- 普段は旦那と2人暮らし、子ども食堂で子どもと話をすると元気がでる。いきがいに繋がっている。

【子ども食堂参加者の声】

- 参加者から気になる子どもがいるとの情報から、行政の担当者に繋げることができた。

コロナによる子ども食堂の変化

コロナ前

- ・みんなでいただきます、ごちそうさま
- ・スタッフと子どもが今日あった出来事などを喋りながら和気あいあいと食事を行う
- ・遊びの時間も走り回ったり、自由にのびのびと



コロナ後

- ・密にならないように来た順で各自いただきます、ごちそうさま
- ・スタッフと子どもは別々に食事
- ・食事中はお喋りしないよう注意
- ・遊びの時間の自粛
- ・マスク着用の徹底



コロナの影響による新たな課題

- 再開後の高齢者、学生のボランティア参加減による**人手不足**（特に遊び、見守り、学習支援）
- 自粛中や弁当配布のみでの活動がある中で、ボランティア希望者との**マッチングが難しい**
- 食育についての時間の省略による、新規参加者**食事マナー**の指導不足、**食べ残し**の増加
- コロナを踏まえた**新しい子ども食堂の在り方**を模索する必要性

子ども食堂を持続可能な活動と するための取り組み

1. 「子どもの居場所づくり」**応援基金の設立**
2. **寄付型自動販売機**の設置
3. 北九州市における子ども食堂の支援に向けた取組
に関する協定 **＜行政×企業・団体×ネットワーク＞**
4. 子ども食堂用の**寄付食材の物流拠点**の仕組みづくり

